

平成 25 年度 事業報告書

社会福祉法人 ふらっと

～ はじめに ～

平成 25 年度は、事業が拡大するに伴って将来の可能性を感じる事が出来ました。

就労事業においては、庵タンドールの姉妹店「畔庵」出店、地酒マイスター検定試験、施設外就労先の増加等、各事業が新しい取り組みを行い、人員も 10 名を超える増員が来ました。そして事業売上もはじめて 1 億円を超える事が出来ました。

A 型事業所の役割として、一般就労が難しい障がい者に対する就労機会の提供ということがあります。このことを考えると、事業において仕事が安定的に確保できる体制であることが重要なことと改めて認識出来ます。

一昨年前に大規模な設備導入、飲食店事業開始と仕事の確保体制を整え、今年度新しい雇用を生み出し、事業売上も過去最高とすることが出来たことは喜ぶべきことと思います。まだまだ十分な体制ではありませんが、仕事のあることが個々の可能性をも生み出すことを実感として感じる事が出来ます。

また、相談支援事業は障がい者が地域生活を送る上でますます重要なものとなっています。

当法人は松江市総合支援協議会相談支援・サービス提供部会でも重要な役割を担っており、当事者の視点に立ったサービスの提供に尽力しています。

障がい者の地域生活を支える事業をさらに体制を整えつつ事業拡大を図っていき、様々な「きっかけ」を活かしながら、障がい者が地域で生きる「きっかけ」をつくり出していき続けたいと思います。

国が障害者権利条約を批准し、障害者を取り巻く環境は大きな転換点に差し掛かっているといえます。

当事者が中心的に活動してきた私達だからこそ、今後の動向も注目し、より良い方向に導いていかなければならないと考えます。

そして、障がい者を含む誰もが安心して暮らせる地域づくりを、その時々にあった事業に切り替え、または、先読みしてチャレンジしていく必要があります。

理事長 新田 裕之

法人本部

はじめに

平成 25 年度の法人本部事業計画の中で、重点目標として次のように掲げた。「法人が実施する各事業を管理者が責任を持って運営する体制づくりをします。その為に、事業統括会議を設置し毎月開催します。又事務職員を加配し法人本部機能を強化します」

この事を踏まえて、以下の通り法人本部事業報告をする。

I 総論としては、本部に職員の加配ができず機能強化という目標達成は出来なかった。しかし、統括会議は定例化し、情報共有をし乍ら各事業を進める「型」をつくることはできた。その内容は各事業報告の説明資料が準備できず、毎月の数字の把握など不十分なところがあった。

本部機能強化が図られなかった事にも関係するが、本部からの毎月の会計的資料も間に合わず、統括会議での事業進捗状況のチェックが「確認、検討、方針決定」までは至らなかった。次年度は是非解決したい課題である。

このような中で、職員の加配はなかったものの、次のことには取り組めた。

- 1) 従業員（職員・利用者）の個人ファイル、データの整備。
- 2) 業務分担、事務分掌の明確化、全体化。
辞令の必要なもの、係として担うものの一覧表を本部と各事業所と連携させた。
- 3) 法人への来文書や発送文書に文書番号を付して記帳したり、各事業所へ転送することがスムーズにできるようになった。

とは言え、次年度への積み残し課題も少なくはない。

- 1) 計画的な人の採用、人材育成を組織的に取り組む。
- 2) 「法人としての契約」を過去データも含め点検する。借入物件、各種保険、リース契約等総点検が必要。
- 3) 住所録の整備
各事業所の取引先や顧客を本部としても把握が必要、データ化する。
- 4) 相談支援事業所ジョイが狭い一室のみでは、本来業務が満足に実施できない。その場所探しを継続していた。(※)

(※) 年度末松江市の賃貸物件（水道局）に応札し「借入」契約することとなった。上記課題解決と将来構想実現の可能性を追求する「場」として今後の事業推進に活かしたい。

II 具体的な実施事業の報告

- 1) 各種会議

① 理事会・評議員会

開催日と参加人数	議 題
第 34 回評議員会 平成 25 年 5 月 25 日 評議員 14 名、監事 1 名	第 1 号議案 経過報告 (25.3.17～25.5.24) 組織体制、役割分担について 第 2 号議案 平成 24 年度事業報告について 第 3 号議案 平成 24 年度決算報告について 第 4 号議案 監事監査報告について 第 5 号議案 各種規程の改正について 第 6 号議案 その他
第 42 回理事会 平成 25 年 5 月 25 日 理事 6 名、監事 1 名	第 1 号議案 経過報告 (25.3.17～25.5.24) 組織体制、役割分担について 第 2 号議案 平成 24 年度事業報告について 第 3 号議案 平成 24 年度決算報告について 第 4 号議案 監事監査報告について 第 5 号議案 各種規程の改正について 第 6 号議案 その他
第 35 回評議員会 平成 25 年 11 月 28 日 評議員 13 名、監事 0 名	第 1 号議案 経過報告 (25.5.25～25.11.27) 第 2 号議案 事業所移転と将来構想について 第 3 号議案 補正予算について 第 4 号議案 各種規程について 第 5 号議案 その他
第 43 回理事会 平成 25 年 11 月 28 日 理事 6 名、監事 0 名	第 1 号議案 経過報告 (25.5.25～25.11.27) 第 2 号議案 事業所移転と将来構想について 第 3 号議案 補正予算について 第 4 号議案 各種規程について 第 5 号議案 その他
第 36 回評議員会 平成 26 年 3 月 15 日 評議員 12 名、監事 1 名	第 1 号議案 経過報告 (25.11.29～26.3.14) 第 2 号議案 平成 26 年度事業計画について 第 3 号議案 平成 26 年度予算について 第 4 号議案 平成 25 年度補正予算について 第 5 号議案 将来構想について (新規事業の取り組みについて) 第 6 号議案 組織体制 (人事) について 第 7 号議案 役員、評議員の改選について 第 8 号議案 各種規程の整備について 第 9 号議案 その他
第 44 回理事会 平成 26 年 3 月 15 日 理事 6 名、監事 1 名	第 1 号議案 経過報告 (25.11.29～26.3.14) 第 2 号議案 平成 26 年度事業計画について 第 3 号議案 平成 26 年度予算について 第 4 号議案 平成 25 年度補正予算について 第 5 号議案 将来構想について (新規事業の取り組みについて) 第 6 号議案 組織体制 (人事) について 第 7 号議案 役員、評議員の改選について 第 8 号議案 各種規程の整備について 第 9 号議案 その他

② 統括会議

月 日	出席者	議 案
平成25年4月17日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. 今後の会議の在り方

月 日	出席者	議 案
平成25年5月15日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. 各事業の報告と提出議題について 2. 理事会にむけて 3. 組織図、役割分担等について 4. 法人内規、様式等の確認について

月 日	出席者	議 案
平成25年6月19日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. 各事業所から～ 2. ラーメン屋（出雲）について 3. 塩見縄手（庵タン）について 4. その他

月 日	出席者	議 案
平成25年7月17日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. 各事業の報告 2. 法人ホームページ作成について 3. その他

月 日	出席者	議 案
平成25年8月21日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. ふらっと倫理綱領について 2. パート・嘱託従業員の退職金について

月 日	出席者	議 案
平成25年9月18日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. 水道局について 2. その他

月 日	出席者	議 案
平成25年10月16日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. 水道局活用 ～ 将来構想 2. 県監査対応 ～法人として、事業所として 3. その他

月 日	出席者	議 案
平成25年11月20日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. 理事会議案について 2. 休暇・欠勤届様式変更について 3. 庵タンドール防災規程について 4. 免許・資格等取得状況調査について

月 日	出席者	議 案
平成25年12月26日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. 水道局活用について 2. 研修会参加 (1/22) 3. 法人役員の改選 4. その他

月 日	出席者	議 案
平成26年1月15日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. 来年度事業計画について 2. 水道局活用 3. 松江市食堂 4. 新年度「統括会議」の在り方

月 日	出席者	議 案
平成26年2月19日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. 事業計画・予算の基本方針について 2. 新年度 ～ 課題 3. その他

月 日	出席者	議 案
平成26年3月5日(水)	新田、安達 石橋、福島	1. 新年度～事業計画(案)・予算(案) 2. その他

③ 法人監事監査会

月 日	監 事 名	報 告 書 か ら
平成25年5月21日(火)	笠木 重人 宮本 立史	○議事録の作成は、出来るだけ速やかに行う事 評議員・監事においては、評議員会・理事会 へ出来るだけ出席を求める事。 借入金の残高証明書を徴求する事。 収入調書・支出命令書に添付する証憑書類 に、紛失リスクがあるので、速やかに綴り込 む事。 事務的には、概ね適正に処理されている。 各事業における経営見通しについて、監査の 場面で質問しましたが、明確な数字にもとづ く説明が得られませんでした。各事業におけ る経営の実務的責任者が任命されていない ようです。事業を安定的に永続させるため に、経営の実務的責任者を明確にする必要が あり、急ぐべき課題と存じます。

④ 内部経理監査

月 日	担 当 者	報 告 書 か ら
平成 26 年 1 月 29 日 (水)	石橋 俊夫 佐藤 靖夫	○会計処理につき、概ね適正に処理されている事を確認した。以下の4点の指摘事項の検討を進めていきたい。 1. 辞令への職責・職務個別名の明記 (○責任者など) 2. 統括会計責任者を明らかにする事。 3. 契約担当者名を明らかにする事。 4. 月次試算表など作成のために、各事業所の会計責任者が速やかに事務実務の進達をする事。

⑤ 健康診断

従業員の健康診断を 25 年 10 月～26 年 3 月に実施した。

かかりつけ医院で受けた方を除いて、25 年度も生協病院にお願いをして行った。国保加入の一部の方については、まつしま脳神経内科クリニックで行った。

また 25 年 11 月には釜瀬囑託医に出張インフルエンザ予防接種を実施して頂いた。

【法人の従業員数の推移】

年度 事業所	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
ピー・ター・パン	利用者 29 (30) 職 員 8 (5)	利用者 30 (32) 職 員 11 (6)	利用者 30 (30) 職 員 14 (6)	利用者 30 (30) 職 員 11 (2)	利用者 30 (33) 職 員 12 (2)
ピストロ 庵タンドール	利用者 () 職 員 ()	利用者 () 職 員 ()	利用者 () 職 員 ()	利用者 5 (5) 職 員 3 (1)	利用者 11 (11) 職 員 6 (1)
相談支援事業所 ジョイ	利用者 () 職 員 1 (1)	利用者 () 職 員 1 ()	利用者 () 職 員 1 ()	利用者 () 職 員 1 ()	利用者 () 職 員 2 ()
地域活動支援セン タージョイ	利用者 (18) 職 員 2 (2)	利用者 (22) 職 員 2 (2)	利用者 (24) 職 員 2 (2)	利用者 (25) 職 員 2 (2)	利用者 (24) 職 員 2 (2)
振興センター	利用者 () 職 員 ()	利用者 () 職 員 2 ()	利用者 () 職 員 3 ()	利用者 () 職 員 3 ()	利用者 () 職 員 3 (1)
法人本部	利用者 () 職 員 ()	利用者 () 職 員 ()	利用者 () 職 員 ()	利用者 () 職 員 2 (1)	利用者 () 職 員 2 (1)
合 計	利用者 29 (30) 職 員 11 (8)	利用者 30 (32) 職 員 16 (8)	利用者 30 (30) 職 員 20 (8)	利用者 35 (35) 職 員 22 (6)	利用者 41 (44) 職 員 27 (7)

※ 表内の数は年度末の人員数。

※ 利用者の () 内は登録数、職員の () 内は障がい者数

ピー・ター・パン

Tシャツ印刷機等を導入し二年が経過した。印刷関係事業のレベルアップを少しずつではあるが確実に実現できつつある。事業売上も目標を大きく越えることができた。シルク印刷機等も導入し、さらに事業の拡大を図っていきたい。

A型雇用従業員の増員目標もはじめて掲げたが、目標を達成した。事業の拡大や従業員の世代交代も考えながら、さらに雇用機会を拡大していきたい。

新たに(株)いずもでの施設外就労や、そば打ちや店番等の実習も行った。施設内だけでの仕事づくりや、それぞれの成長を考えると限界もあり、新たな仕事づくりやそれぞれの可能性を引き出すための取り組みとして重要なことと捉えている。地域にはまだまだたくさんの仕事があり、従業員の成長の可能性も引き出せるように積極的に取り組んでいきたい。A型事業所として従業員それぞれの働き方や支援のあり方を考えなければならない場面も増加している。働きたいと考える障害者の人たちにどう仕事を提供していくか、また、それぞれがどう成長していけるのか、成長をどう支えるのか様々な角度から検討し形にしていかなければならない。

【人員状況（平成26年3月31日現在）】

A型雇用従業員 30名 A型非雇用従業員 3名
個別委託訓練実施状況 6名
新規A型雇用従業員数 5名
一般就労移行 1名

A型雇用従業員の増員計画を5名とし、目標は達成できた。

ハローワークからの紹介により、委託訓練を実施しながら雇用に結びついたケースも多い。仕事に対するマッチングや支援ポイントを知る上でも有効で、今後も活用していきたい。

クオリティーの高い製品製作を意識しているため、技術的体力的に従業員の役割について質量共に課題も表面化してきている。従業員も増加したため、勤務年数の長い従業員が、変化に戸惑う場面もある。しかしながら、変化をきっかけにしてそれぞれが自分の役割や将来について考えるきっかけになってきている。一般就労をする人、起業を考える人が出てきたことは一つの成果である。

また、(株)いずもでの施設外就労や、そば打ち実習をはじめ、外部事業者との繋がりを活

かし新たな取り組みも開始した。新たな仕事づくりの必要性も考えながら、経験の蓄積、自信や責任感育成にも繋がってきている。働き方、自分に出来ること、生活リズム等自ら考え、決定していくことが重要であると考え。

もちろんそれに対して支援員がどのようなアプローチをしていくかも力量を問われる。A型事業所における支援のあり方は改めて検討していく必要がある。

一般企業と変わらない品質を追及することにより、より高いレベルを目指し、誇りを持って働いていけるように環境づくりや人材育成を強化していきたい。

【売上目標】・・・50,000,000 円

【売上実績】・・・61,486,926 円

目標に対してプラス約 1,150 万円

(売上目標内訳)

●印刷・・・30,000,000 円

●ウェアプリント*UVプリント・・・20,000,000 円

(売上実績内訳)

■印刷・・・41,890,820 円

■ウェアプリント*UVプリント・・・17,892,165 円

■前年同様行政機関への営業を積極的に行ったことと、増税前の駆け込み需要で目標を上回れた。また、引き続き千鳥印刷と密な関係を築くことにより外注費削減を行い、千鳥印刷からも年間 234 万の仕事を受注できている。また、マテリアル部門についても、設備整備の充実により、Tシャツやバッグのプリント、ノベルティ制作などの大半を内製化できるようになったことが売り上げ増の大きな要因といえる。内製化実現の効果は対外的にも出ている。製品内製化がスタッフの経験値を向上させたことにより、お客様への適切なアドバイスや提案がスムーズにできるようになり今までになかった『顧客満足度向上』が実現でき、リピートに繋がっている。

■『しまね故郷名刺』の認知度もあがり 160 万の売上。

■スサノオマジックオフィシャルスポンサーについて。今シーズンはリーグ最下位と低迷したため他スポンサーの熱が上がりきらず仕事の依頼が減ったが、4年間の実績とデザイン性が認められチームや選手個人からの仕事の依頼は増えた。チームが勝つことが望ましいが、戦績に関係なくチームなどからリクエストが増えたことは狙い通りである。

前述した様に、今後ピー・ター・パンが大きくなっていく上で必要な『顧客満足度獲得』をスタッフ全員が意識し、経験値向上による『売り上げ目標達成』を実現できたことが25年度の最大の収穫であり、また今後のピー・ター・パンが目指すべきところである。

【各種会議】

毎月一回個別支援会議を行っている。

支援計画を見直している。より具体的な支援計画にしていくため、支援員間で支援のあり方を再度検討していく必要がある。

また、毎週一回現場会議を行っている。共有すべき事項を確認している。

【施設外就労・施設外支援】

引き続き「頑固一徹塩ラーメン（出雲市）」、「心と体の相談センター」で取り組んでいる。また、新たに(株)いずもでの作業も開始した。可能な取り組みは積極的に考えていきたいが、人員等の体制や企業との信頼関係がいかに構築できるかが鍵である。

【防災避難訓練】

実施日：平成26年3月7日

実施日：平成26年3月14日

初回はDVDで災害防止への意識啓発を行ったのち、どのように消火、避難するかを職員で討議した。

2回目ではスタッフ全員で避難訓練を実施した。

【その他】

委託訓練課程DTPデザイン科を受託したが、予定した期間で受講者はなかった。しかし、期間外ではニーズもあり、個別委託訓練は実施できた。今後実施期間等も検討して受講しやすい形にしていきたい。

ビストロ庵タンドール

「誰もが優しい笑顔になれる場所」として、障がい者も健常者も大人も子供も集まりやすく、障がい者が働いている姿を自然な形で目にすることもでき、行きたい場所としても選ばれるものとして2年目を挑戦してきた。

1年間通しての経験は初めてだったが、利用者も経験を積み、作業に慣れて来た様子がかがえた。

また、松江の観光の中心地でもある塩見縄手の「松江ごころ」内に、「カフェ畔庵」を庵タンドール姉妹店として9月19日にオープン。観光地と言うことで隠岐牛井を中心とし、郷土色豊かなカフェとして地域に根付くようにしていきたい。

利用者はカフェ畔庵のオープンもあり、利用者12名（庵タンドール7名、畔庵5名）に増員、各々が出来る作業も確実に増え、見違えるほど自信を持って各作業に携わっており、お客様より高・好評価をいただいている。

しまね地酒マイスター事業も開始、溝口県知事にも名誉会員になっていただき、8回の試験を行っている。蔵元さん達も団体受験してくれたり、玉造の旅館等への出張試験等も行っている。

さらに、3月より篤志寄付事業の弁当事業もピー・ター・パン、ジョイから始めており、利用者も雇用していき、徐々に拡大していく。

今後は、浮き沈みの激しい飲食業界の中にあって、日々の確実なサービスやイベント等で、飽きられないお店作りをしていくことが必要である。

<売上>	庵タンドール	31,107,454円
	畔庵	2,355,550円
	合計	33,463,004円

<イベント等>

5月/1周年記念フェア

毎木曜日：海士Nightフェア

ビュッフェ形式・飲み放題

参加者：約80名

5月20日/1周年記念パーティ

理事・評議員、お取引お得意様案内、貸切

参加者：約40名

5月6日/ENZUI☆GIRI 参加店舗

参加者：約120名

7月／街コン 参加店舗

参加者：約80名

7月27日／Pリーグ（島根日本酒女子利き酒大会）奥出雲大会

参加者：10名、観覧者：30名

8月／奥出雲フェア

ビュッフェ形式・飲み放題

参加者：約130名

11月3日／Pリーグ（島根日本酒女子利き酒大会）石見大会

参加者：12名、観覧者：50名

11月／天穂の会

板倉酒造の蔵人さんのお話を聞きながら、冬の新作鍋のお披露目も兼ねる。

参加者：約40名

12月8日／Pリーググランド大会（於：スティックビル）

参加者：12名、観覧者：約60名

3月31日／防災訓練

<日本酒マイスター試験>

・年間8回試験、87名受験

ゴールドマイスター8名

応援スタジオ ジョイ

応援スタジオジョイでは「相談支援事業所」「地域活動支援センター」の二事業およびピアサポート活動に取り組んだ。

相談従事者は、2名の専任専門員体制で、地域活動支援センターでは、専任者(支援員)2名、兼務者1名ですすめた。

相談支援事業所 ジョイ

1. 会計

当初予算を700万円(松江市からの指定相談支援事業所委託料600万円・計画相談給付100万円)と見込んでスタートした。年度末決算では916万8千円(委託料700万円、支援サービス給付216万8千円)であった。当初予算に比し216万円増となった。これらは、相談員増員に伴って、①年度途中で委託料が100万円増額(600万円→700万円)したこと。②計画相談給付が当初見込んだ金額予算を上回った(100万円→216.8万円)結果(計画相談件数の増)であった。

2. 相談員増員と相談受理数

延べ件数2949件(月平均246件)であった。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
161名	125名	170名	203名	210名	228名	329名	331名	296名	300名	296名	300名	2949名

事業計画通り新人相談員を1名採用した。概ね1年の研修計画の下に、順調に研修を進め、相談業務に当たっている。

昨年度(平成24年度)の受理件数が3900件余であったのに対して、今年度は概ね1千件の減となった。カウント形式にもよるが、一方で収入増となった計画相談支援件数は増加した。給付を伴わない諸生活問題を対象としたソーシャルワーク(一般相談：サービス給付を伴わない相談支援業務)に力点を置いていたことから、中には、計画相談支援給付の申請ができるケースについても、計画作成実務の煩雑さと実務量(新規申請及び更新申請時に、申請書を含め13頁に及ぶ書類作成、承諾書及び契約書、重要事項説明書への押印のための家庭訪問)から時間が確保できない状況であった。

今年度は、計画相談計画書作成の必須化(松江市の障がい福祉サービス給付を受ける当事者は、相談支援専門員の作成した相談支援計画書を提出しなければサービス給付をしない)から、相談

員の実務量は増加した。一方で、経営的には委託料では経営的に成り立たないことから、計画相談支援給付の増収が望まれ、一定の収入を上げるために実務体制を補完した結果であった。同時に、受理件数減の要因として、一般相談を計画相談に制度的にもシフト（意図的なシフトではない）した結果と言える。相談受理件数とその対応方法は、総合支援法運用上の課題であり、当事業所を含めた相談支援事業所の課題で今後重点的に検討を進める。

3. 実務処理対策

相談支援事業所を開設して以来、相談ケース受理した実人員は300名に近い。その殆どのケースは、生活の継続を目的としており終結をみない。従来、ケース管理では、個人的に所有するデータベースソフトを利用しており、管理上から十分と言えない状況であった。複数の相談員が共有できるシステム、ケース管理、記録管理及び行政報告などを合理的に進めるために、管理ソフト（東経システム「福祉見聞録」）を購入し、データ共有できるシステムの導入を行った。データ移行など、全面稼働は次年度の課題である。今後、このシステムを利用しケース管理、記録管理と計画書作成、報告実務の合理化を図っていききたい。また、同システムは計画相談支援給付の国保連請求が可能となっている。従来、法人本部事務局で代行した請求業務について実務可能となっている。事業所単位で請求実務を行うかどうかは今後の検討課題とする。

4. 協働した機関などの特徴

昨年同様、ホームヘルパー利用など事業所、医療機関、他の相談支援事業所との協働をすすめた。また、障害に起因する社会生活上の困難に関連する活動を「相談支援」と位置づけ、事業計画に位置づけた。①相談活動ジョイでの相談、電話・訪問、サポートステーション絆への相談員派遣（週1回）、②ピア・カウンセリングの障がい別登録、③相談員勉強会（医師・セラピスト・看護師・介護士・ケアマネージャーなど）をすすめた。計画相談を進めていく上で、法令の運用（障害者総合支援法と介護保険、生活保護法）のケースが増加している。また、介護保険、生活保護法など生活援助サービスの併用事案が増加した。それらは、重症度の高い高齢障害者と介護保険2号被保険者（40歳から65歳までの特定疾患患者）の有料老人ホーム（高齢者専用賃貸住宅、住宅型有料老人ホームなど）利用に相关联している。介護保険給付限度単位を越えて生活介護を要する事案の増加である。

様相的には、医療機関の退院が、即刻一人暮らし困難などの事案、さらに生活困難者（稼働力の低下、家族の介護力低下など）の帰来先として有料老人ホームを選択しか方途がない案件を散見した。

5. 研修活動と地域貢献活動

研修と位置づけた事柄

- ・松江市サポートステーション絆が主催する事例検討会への参加(隔月/松江)
- ・相談支援専門員初任者研修(島根県社会福祉協議会/松江)
- ・島根県医療社会事業協会が主催する研究会への参加
- ・社会福祉士実習施設指導者研修会(広島県社会福祉士会主催/広島)
- ・発達障害研修(島根県発達障害者支援センター主催/浜田)
- ・成年後見学習会(島根県社会福祉士会主催/松江)

社会貢献活動

- ・松江市総合支援協議会相談支援・サービス提供部会への部長としての関与
- ・民生・児童委員会研修会への講師派遣
- ・ジョブコーチ研修(出雲/身体障がいと就労支援)への講師派遣
- ・作業療法士・理学療法士養成学校への講師派遣

地域活動支援センター ジョイ

主な活動として、パソコン教室、ADL体操を設定し取り組んだ。

パソコン教室は1名で週1回実施した。

ADL体操は定例開催(毎週木曜日午後)5年を経過し定着した。作業療法士など専門家の支援を受け、活動参加者が生活の中に「体操」を位置づけることができている。

今後の課題として、利用者の増加を図るため、活動内容の検討、新たな活動内容の設定・支援員配置が望まれる。

以下に実績報告書を添付した。

1 月別実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	20	21	20	22	19	19	22	20	19	19	19	20	240日
初日在籍通所者数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288人
延通所者数	105	130	96	114	110	114	125	111	82	67	99	100	1253人
実通所者数 (b/a)												5人	

2 通所者の状況

No.	性別	年齢	障害種別			年間通所日数	工賃支給総額	No.	性別	年齢	障害種別			年間通所日数	工賃支給総額
			知的	身体	精神						知的	身体	精神		
1	男	66		1		178日	円	13	男	75		2		41日	円
2	女	68		1		218日	円	14	男	48		2		43日	円

3	男	64		2	91日	円	15	女	70	A		43日	円
4	男	68	1		35日	円	16	男	48	B		39日	円
5	女	68	2		37日	円	17	女	71		2	37日	円
6	男	75	2		43日	円	18	女	77		4	42日	円
7	女	63	1		43日	円	19	女	79		3	34日	円
8	男	72	4		50日	円	20	女	66		3	16日	円
9	男	55	1		43日	円	21	男	76		2	41日	円
10	男	68	1		42日	円	22	女	68		4	39日	円
11	女	61	1		38日	円	23	男	52		1	18日	円
12	女	66	2		26日	円	24	女	28		1	16日	円

3 職員の状況

職 種	氏 名	年 齢	専任・兼務の別	年間勤務日数	勤務期間	職務内容等
管理者	安達 通男	64	専任 ・ 兼務	241日	25年4月～26年3月	管理者
	渡部 勉	51	専任 ・ 兼務	241日	25年4月～26年3月	支援員 事務
	池田 由樹	42	専任 ・ 兼務	61日	25年4月～25年6月	支援員

4 事業実績状況

サービスの内容	実 績
<ul style="list-style-type: none"> ・ パソコン教室 ・ 趣味・娯楽の活動 ・ 調理、食事会の企画 ・ 研修会、学習会の企画 ・ その他（ニーズに応じて） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パソコン教室の実施 ・ 健康体操の実施（ADL体操）

島根県障がい者就労事業振興センター

平成25年度「島根県障がい者就労事業振興センター」は引き続きセミナーや専門家派遣等を行いつつ、就労支援事業所間の連携・協働、事業所と企業・行政・他産業との連携をコーディネートすると共に、就労支援事業所の営業能力を高めるためのアドバイスをを行い、障がい者の工賃向上を実現するために以下の事業を行った。

1. 就労支援事業所の販路拡大

(1) 共同商品・共通ブランドの開発

トマト栽培連携、はっぴいえコプラザ事業等複数事業所で行う取り組みを主に支援している。振興センターとして継続支援することで安定した取り組みになってきている。また、商品開発へのアドバイス等を行いながら共通ブランド化に向けて検討を行っている。

(2) バザー等の共同販売イベントの開催

振興センターとして、すまいる（県庁内ショップ）での販売を9月から行った。実験的にいながら、マーケティングや商品開発等に活かしていきたい。

バザー・イベントはハートフルバザーin出雲で20事業所の参加があり、規模感のあるイベントとなった。企画から事業所と共に行っていくことで、利用者の方の参加や、体験の場としても活かしていけるものとする。

販売活動

	月	売上金額
すまいる (県庁内ショップ)	9月	56,820
	10月	34,760
	11月	12,050
	12月	5,200
	1月	0
	2月	3,655
	3月	3,655
	合計	116,140



バザー

農技センターフェア	売上金額（9事業所分）	260,970
	参加事業所	11



ハートフルバザーin 出雲	売上金額	220,065
	参加事業所	20



その他

イベント案内	きらら多伎
	福祉共同市場
	縁結びラブソングコンテスト

イベント協力	ウェルネスフェア
	須田商店開店記念セール
	ハートフルフェア in イオン日吉津

(3) 企業との商談会、受注調整

内職の需要があり、複数の事業所へ引き続き紹介している。施設外就労による取り組みも始まり、継続的な受注となるよう期待している。

ドラッグストアのウェルネスでハートフルコーナーとして各店舗で販売を行っている。商品選定会や意見交換会を行った。改善点等を相互に理解しながら、今後さらに発展させていくために定期的な商談やイベントの開催、意見交換会等も企画し、信頼関係を築いていく必要がある。

はっぴいえコプラザ事業は、グッディーの協力もあり、現在3店舗で実施できている。

その他受注調整等も増加してきており、受注調整のしくみづくりが急がれる。

販売・受注実績

内職等

河内	内職	9 事業所	1,184,603
	施設外就労(斐川アソート工場)	2 事業所	387,453
足立工産	内職	4 事業所	252,795
一畑トラベル	内職	1 事業所	40,800
(株) 七洋	内職	1 事業所	3,900

小計; 1,869,551

斐川アソート工場・施設外就労



ハートフルコーナー販売実績

ウェルネス	月	売上金額
	4月	274,702
	5月	204,828
	6月	258,208
	7月	204,286
	8月	204,108
	9月	218,226
	10月	175,050
	11月	197,666
	12月	204,244
	1月	170,218
	2月	207,926
	3月	172,742
	合計	2,492,204

商品選定会

ウェルネス商品選定会参加事業所	9事業所
-----------------	------



はっぴいえコプラザ実績

(単位 ; 円)

はっぴいえコプラザ (グッディー) 実績金額 ; 603,030	月	医大通り店	木次店	平田店
	4月	15,520	23,440	
	5月	14,540	37,300	
	6月	14,420	28,350	
	7月	15,670	32,120	18,480
	8月	10,380	39,220	13,490
	9月	12,870	30,410	11,620
	10月	12,810	30,370	13,890
	11月	9,990	26,090	10,720

	12月	11,840	29,590	11,860
	1月	9,070	22,130	7,970
	2月	6,760	19,140	10,580
	3月	12,970	24,180	15,240
	合計	146,840	342,340	113,850

グッディー木次店



グッディー医大通り店



実績合計金額;5,561,960

説明会等

除草作業に関する説明会	島根労働局	4事業所
共同で行う施設・設備整備に関する補助金の説明会 (トマト栽培)	島根県障がい福祉課 (稲田氏)	3事業所
ウェルネス意見交換会		11事業所

(4) 官公需獲得への営業活動、受注調整

官行需、共同受注窓口については障害者優先調達推進法の施行されることもあり期待されている。振興センターとしては各事業所の詳しい情報をデータベース化し、情報提供や具体的営業に繋げていくため、システム開発をおこなった。名称をMIRAIWAとし、公開中である。今後各事業所データを活用し、受注システムを確立していきたい。各事業所の理解、努力も得ながら進めていく。

2. 人材育成

今年度、マネージメントゲームを活用した、役員向けトップセミナーを継続して開催した。また、受注力アップセミナーも新たに企画した。実際に講師から参加事業所へのアドバイスも得られ好評であった。より参加しやすい形を考慮しつつ、継続して進めていきたい。

セミナー開催

トップセミナー・経営力アップ セミナー	マネージメントゲーム	出雲×2回、浜田、大田
受注力アップセミナー	講師；手島大輔氏	26事業所・30名

マネージメントゲーム

出雲



浜田



大田



浜田（優秀経営者表彰）



受注力アップセミナー



打合せ

ビジネスマッチングシステム“MIRAIWA”打合せ	24回
---------------------------	-----

3. 専門家派遣

商品開発等に必要な専門知識、技術習得のため専門家派遣を活用する事業所が増えてきている。研修機会としても活用され、好評である。

[専門家派遣]

派遣先	回数	派遣先	回数
にじの家	3	ぼてとはうす	2
ぼんぼん船	2	さざんか	3
ふたば園	2	プロジェクトゆうあい	2
希望の園	3	株江友	1
川本ワークス	1	さくらの家	1
ぼんぼん船	1	NPO 法人ふくしネットワークにじ	1
プロジェクトゆうあい	1	株江友	3

14 事業所・26 回

商品開発



画像処理



4. アドバイザー設置による相談業務

島根県障がい者就労事業振興協議会会員事業所を中心に訪問を行った。

各事業所の特性や課題、現状の商品・製品などを見聞きし、事業所が抱えている問題点・課題等を整理した上で専門家派遣などに繋げている。経営課題に対する相談も増えており、アドバイザーのマネジメント力も要求されてきている。

また、MIRAIWA システムの構築のため事業所を訪問し、事業所の取り組みをデータ化している。設備などの情報蓄積により、企業などに対するビジネスマッチングの可能性を広げている。

[訪問・相談状況]

福祉事業所

事業所名	回数	事業所名	回数	事業所名	回数
さくらの家 (松江)	4	まるべりー斐川	4	はとぼっぼ	11
島根ライトハウス	1	エルパティオ三葉園	15	さざんか	23
江友	15	太陽の里	14	ひまわり	9
ふれあい工房ふれんど	5	やまびこ園	4	どんぐり	11
だんだん工房	2	なかよし	19	邑智園	4
ひだまり	3	ぼんぼん船	14	川本ワークス	7
希望の園	16	ぼてとはうす	21	サポートセンターFOH	1
にじの家	4	ワークケアみずうみ	6	つわぶきの里	1
梨の木園	4	ふたば	12	仁万の郷	1
プロジェクトゆうあい	6	飾彩房	9	亀の子工房	4
四ツ葉園	3	フィリア	2	ございな	1
授産センターよつば	11	サポートセンターどりーむ	5	はあもにいほうす	1
L..C.C ういんぐ	3	あそび	1	よしかの里	1
わこう苑	7	フロンティア	8	ワークくわの木熱田事業所	1
だんだんネ	2	けやきの郷	4	きすきの里	5
パック島根	3	美野園	1	ふれんど	7
松江 you 愛会	2	つわぶきネット	9	あゆみの里	3
ワークセンターフレンド	2	豆の樹	1	しゃぼん玉工房	4
センターはばたき	4	ワークハウス”しのめめ”	4	ほたるほうす	2
若草園	3	ピー・ター・パン	4	山光園	3
サポートかすが	6	こだま	1	みずうみの里	1
櫻 苑	1	わんぱく大使館	1	斐川あしたの丘	1
ワークセンターやすぎ	1	清風園	2	ワークくわの木金城第2事業所	1
ラヴィアンローズ	1				

一般事業所

事業所名	回数	事業所名	回数	事業所名	回数
とよた園芸場	7	出雲そば えにし	2	タイヤ館雲南	2
マツケイ	2	ファームきらり	1	そば処神門	1
キララ多伎	2	山陰メディア通信社	3	須田商店	1
ウェルネス湖北	18	めぐみ	1	ゆめタウン出雲	1
あかつきファーム今在家	1	ふるかわ	4	足立工産	4

河内	11	メルモノのおやつ	5	一畑トラベル	4
さんあーる出雲	2	トウチュウ	1	シーアンドエヌ	2
グッディー	18	有機ファーム研久屋	1	大根島ローズランド	1
常楽ローズガーデン	1	カラコロ工房	1	岸エンジニアリング	1
山陰合同銀行	2	メリット	1	つどいの丘	1
三越伊勢丹ソレイユ	1	(株) 七洋	3	エコカレッジ	3
マジョルカ	1	メリット	1	伸興サンライズ	1
ワイズコレクション	3	一畑百貨店	2		
あ・うんダイニング	1	山陰興業	2		

団体・行政

行政・団体	回数	行政・団体	回数
松江市 障がい者福祉課	14	島根県遊技業協同組合	1
松江市 契約検査課	4	しまね農業振興公社	18
雲南市 長寿障がい福祉課	6	出雲市社会福祉協議会	3
雲南市 産業振興課	1	島根障害者職業センター	2
雲南市 情報政策G	1	全国オイルリサイクル協同組合	5
雲南市 政策推進課	2	出雲商工会議所	1
島根県 医療政策課	1	鳥取県障がい者就労事業振興センター	3
島根県 雇用政策課	1	出雲養護学校	1
大田市 社会福祉課	1	ふるさとしまね定住財団	8
安来市 福祉課	2	しまね農業技術センター	3
西の島町 地域振興課	2	島根県立大学松江キャンパス	8
島根県警察本部	1	大原クシナダ倶楽部	1
島根労働局	9	しまね産業振興財団	1
心と体の相談センター	2	神戸川小学校	1
塩冶小学校	1	出雲二中	1
出雲一中	1		

5. その他

今年度はじめて広島で開催されている、ひろしまS-1サミットに対して出場するための島根県予選を企画した。本選には1事業所の参加となったが良い経験となった。単に商品開発といっても様々な要素が含まれており、それに気づききっかけの一つとして有効なものとして捉えている。先進地視察としてもひろしまS-1サミットを視察した。今後事業所の目標の一つとして継続開催できればと考えている。

また、農福連携や各関係団体の会議にも参加し、情報交換をおこなっている。イベント等で共同開催も考えていきたい。

ひろしまS-1サミット

島根県予選	8月29日	4事業所
広島予選・説明会	9月20日	川本ワークス、さざんか
広島予選プレゼン研修会	10月8日	川本ワークス、さざんか
広島予選	10月18日	川本ワークス、さざんか
広島本選	11月23日	さざんか
		先進地視察参加；7事業所、8名

島根県予選



プレゼン研修会



広島・本選



[会議・説明会・研修等]

会議

会議名	主催	備考
農福連携ネットワーク会議	しまね農業振興公社	松江、出雲、雲南、県央、 浜田、益田 島前、島後
就労系事業所連絡会議	出雲市社会福祉協議会	
吉賀町農福連携説明会	吉賀町	
オイルリサイクルプロジェクト会議	全国オイルリサイクル協同組合	3回
農福連携ポーター情報交換会	しまね農業振興公社	
農福連携推進会議	しまね農業振興公社	

研修

研修・セミナー名	主催	備考
基礎から学ぶこれからの商品づくり講座	島根県ブランド推進課	3回
障がい者雇用セミナー	島根県雇用政策課	
障がい者雇用促進セミナー	リーフ	
日本セルフ士会視察研修会	日本セルフ士会	
ナイスハートバザール担当者研修会	全国社会就労センター協議会	
日本セルフセンター研究大会	日本セルフセンター	
フードバンク推進シンポジウム	島根県社会福祉協議会	
障がい者施設支援員向け農業研修会	しまね農業振興公社	
農福連携推進研修会	しまね農業振興公社	

オイルリサイクルプロジェクト



農福連携推進研修会



まとめ

振興センターが設立して3年半が経過し、様々な取り組みを行いながら、各事業所の課題解決をサポートしてきている。今後より事業所製品の販路拡大を進めていくためにはより地域と密接に繋がっていく必要がある。27年度には振興センターを法人化し、他県の振興センターとも協力しながらより力強く工賃向上を実現できる体制を整えていきたい。